ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第 134 回放送の概要（2018 年 6 月 23 日放送）

パーソナリティ
たろう
（佃　由晃）
なか
（中嶋邦弘）
かりん
（妹尾優香）

ミキサー
門ちゃん
（門田成延）

会計
小山俊則

相談役
わだかん
（和田幹司）

1．　ゲストコーナ（1）WORKMATE 代表　アジア女性自立プロジェクト(AWEP)前代表 外国人救援ネット副代表 森木和美さん

本日６月２３日は、沖縄戦の組織的戦闘が終わった日として制定された**「沖縄慰霊の日」**です。兵庫高校大先輩の沖縄戦前最後の官選知事　島田叡さんは２０万人以上の住民の命を救い、今も沖縄の島守として語り継がれ、命日は６月２６日です。兵庫高校生は先人を偲び修学旅行で慰霊の沖縄旅行で訪れています。

沖縄全戦没者追悼式において「平和の詩」を朗読された沖縄県浦添市立港川中学校３年生 相良倫子さんの、戦争を絶対起こさないという強い決意を述べた「生きる」を、是非読んでいただければと思います。

島田叡氏慰霊碑

島田叡氏顕彰碑除幕式(2015.6.26)

森木さんが携わってこられた３つの団体に共通するのは、アジアの女性の自立支援です。
関西学院大学社会学部に入学し、部活は劇研究部で卒論は「社会と演劇」というテーマであった。授業より劇研に行く方が多かった。在学中に劇研でフランスのナンシーで学生演劇コンクールが開催されるのを劇研の先輩から聞き参加し、文学部の学生の書いた創作劇と日本の伝統劇「夕鶴」を発表した。コンクールでは評判がよく選ばれた。ヨーロッパは初めてで、文化や学生の在り方（積極性、活力、エネルギー）と、大きくて立派な建物にショックを受けた。世界中から参加者が集まり学生同士の交流があった。当時女性の就職は難しく、日本から出て違うことをした方がいいと考え、４年生では単位をほとんどとっていたので、１年間ドイツ人宅の住み込みメイドをして渡航費を稼ぎ、両親を説得し、船でナホトカに行き、モスクワ廻りでベルギーのルーヴアン大学演劇修士課程に籍を置いた。当時は１ドル３６５円の時代で持参するお金に制限があり、演劇コンクールで知り合った台湾の学生が発行してくれた招待状を持って、その人を頼りにベルギーに行った。

留学生活は稼ぐこと、フランス語を勉強すること、そして大学への手続きもあり１年目は必死だったが２年目から色々わかってきた。大学内の喫茶店でバイトしていた時にブラジル人と知り合い、日系人ではないが日本語が非常に上手で、色々世話もしてくれ、その人とベルギーで学生結婚した。その夫が世界銀行に就職が決まり、子供も生まれていたのでワシントン DC に一緒に行くことになった。そのためルーヴアン大学の演劇修士課程は修了していない。ワシントンは世銀他、国際機関がたくさんあり、住みやすい場所であった。ワシントンに３年間生活後、夫はブラジルにあるアメリカ系銀行から声がかかりブラジルに行くことになった（５年間生活）。

小学生の上の子を日本人学校に通わせたいと思ったが、子供はブラジル国籍で、日本国籍ではないということで断られた。当時の国籍法では、日本人の女性の子供は日本国籍を引き継がないという規定があった。ベルギーで日本領事館に出生届を出しに行ったが、出す必要がないといわれた。何故と聞くとあなたは女性だからと言われた。日本人男性の子供なら戸籍に載ると言われた（父系優先の国籍法）。当時父系優先は他国でも行われていた。血統主義と生地主義があり、当時はアジアの国やヨーロッパは血統主義でアメリカ、ブラジル、オーストラリアなど移民の国は生地主義であった。ベルギーで生まれた子供は当時はベルギーの国籍はなかったが今は違う。その後フランス、ドイツなどは生地主義に変わった。

夫の転勤で日本に帰国した時、森木さん達の国際結婚をした当事者グループは 1979 年に**国際結婚を考える会**を作り、国籍法改正運動をした。一方国連が女性差別撤廃条約を作り日本も批准し、法律上の男女差別を廃止することになり、1984 年に国籍法が改正された。1985 年からは母親が日本人の子供は日本国籍がとれるようになった。この時に森木さんの子供も届け出で日本国籍がとれた。

国籍法改正時に選択制度ができ、2 国籍を持つ子どもが増えるということで、政府は防御策として 20 歳になって２年後までにどちらかを選択することになった。しかしそれは名目だけで、森木さんの子どもたちは今もブラジルと日本の２重国籍である。ブラジルは選択制ではなく、国籍を捨てられないからである。旅行する場合、出国時はブラジルのパスポート、日本入国時は日本のパスポートを使用する。ブラジルパスポートで入国する場合ビザが必要になる。日本にルーツのある人は日本のパスポートを持つ権利があると考えている。

2．ミュージック

「アリの巣メルヘン」のアルバム「１２星座シリーズ」より、６月ふたご座の曲「Radio Tower」です。
作詞作曲編曲はアダチ彩季，　歌は小玉唯智です。

ふたご座６月の曲「Radio tower」

アリの巣メルヘン

3．ゲストコーナー（2）

国籍法が変わりやれやれと思っていた時、プエルトリコに転勤になり、このような転勤生活がづっと続くのかと思うと自分自身のことができないことを不満に思い、子供たちも高校と大学に行っているので離婚し、森木さんだけが日本に帰ってきた。当時森木さんがやりたかったことは、国際結婚を考える会を作っていたので色んな相談を受け、さらにアジアからの出稼ぎ女性達が、結婚したい、子供が生まれた、子供の父親を捜してほしいとかの相談に来るようになった。社会の一員としてプエルトリコなど外国の地で社会参加するより自国に帰り活動したいという気持ちが強かった。

そして**アジア女性自立プロジェクト(AWEP)**を立ち上げた。国際結婚を考える会は事務所を構えて行うのではなく、全国の拠点となる人が世話人となり運営し（名古屋、東京、京都、大阪）、今は海外にも拠点がある。AWEP を立ち上げた理由は、アジアから出稼ぎに来ていた女性たちは、エンタテナーという資格で来ており、一方日本人男性はフィリピンなどに慰安旅行と称し買春ツアーをしていた。また人身売買、アジア人女性が絡む殺人事件などひどい状態になっていた。そこで現状を知るためにフィリピンにスタディーツアーをし、女性達から話を聞き、日本で何かをしなければと思った。フィリピンでは日本から帰国した女性を支援する NGO が立ち上がっており、日本にはなかったので AWEP を立ち上げた。

日本に出稼ぎにきた場合、エンタテナービザのため６ヶ月間仕事をして帰国し、６ヶ月経過後再来日を繰り返していた。お父さんが違う子供が何人もいる状況があった。お父さんを探してくれ、結婚したいなどの相談があり、しかし相談を受けるだけでなく仕事を作る必要があると考え、アジアの女性団体と一緒に縫製の技術を学んでもらい、できた製品を日本で AWEP が販売するということになった（フェアトレード）。最初は何を作ればよいかがわからず、外務省の助成金をもらい、ミシンを購入したり、技術を学ぶためのトレーニングをするなど、試行錯誤を繰り返していた時阪神大震災が発生した。

震災時は、届いた製品の販売がままならず、在住の困っている外国人に物資を運んだり、相談を受けていた。震災の後 AWEP は　①フェアトレード（アジアに帰国した女性の支援）②日本在住の女性の支援の 2 本立てになり現在も続いている。AWEP の対象とする国は、**フィリピン**の伝統の織物、原住民の作る物など色々あるが材料のバティックが段々なくなり、それではと**インドネシア**にフィリピンの人たちと一緒に行こうということになった。インドネシアに拠点を持つフェアトレードの団体とコンタクトがとれ、

インドネシア製品も買うことになった。次は**タイ**のチェンライで、人身売買の被害を受けている女性たちが自立するための製品づくりをしているという情報を伝えてくれた日本人女性から、購入してほしいという話になり、タイとの付き合いが生まれた。**ネパール**は最近であるが、スタッフの一人がネパールの研究をしていてネパールにも人身売買の被害者の当事者が作っている団体があり、製品を作っているが売れない、何を作ったらいいかわからないということを聞き、スタディツアーでその団体を訪問した。その結果できたのが日本のさをり織で、大阪のさをり織本部にネパールから１年間ほどの研修に来てもらった。ネパールに技術を持ち帰ってもらい、今は AWEP の提供した織機５台ほどで製品を作っている。

たかとりコミュニティセンター２F の展示

フィリピン、タッグバッグ

タイ、古布を使ったバッグ

ネパール、さをり織のメガネ置き

タイ、少数民族のポーチ

タイ、モン族の刺繍ポーチとめがねケース

フィリピンの女性の場合は日本国内での問題があるが、他の国はその問題はなく、フェアトレード及び人身売買という強制的に移住を強いられる女性たちという共通問題がある。インドネシアも町に出稼ぎに行かなければという女性たちが増えており、タイも自分たちが人身売買の被害者にならないようにという思いで始めたグループなので、どの国もそのような共通項はある。

フィリピンに関しては父親が日本人という大きな問題がある。JFC ネットワークという団体がある。J はジャパン、F はフィリピン、C は子供で、２０年以上前に出稼ぎにきたフィリピン女性と日本人の間で生まれた子供たちのうち、結婚しないで帰国し生まれた子供たちについては日本国籍のない子供が多い。胎児認知してあれば法律上問題ないが、多くの子供たちが出生後裁判を起こしている例では、生後認知も日本国籍が認められている。問題はフィリピンで生まれた場合で、国外で生まれた場合３か月以内に日本政府に届け。国籍確認が必要となっており、現実は父親が日本に帰国しておりフィリピン人の母親は知らないので放置し、日本国籍を取得できない子供たちが存在している。そのような子供は２０歳までに来日し法務局に届ければ日本国籍は取得できる。

AWEP の代表を 20 年間務め、若い人にバトンタッチするということで代表を奈良さんにお願いし、理事の立場でボランティアで関与している。現在活動している WORKMATE は AWEP や外国人救援ネットが相談で対応した後のフォローをするための団体として発足した。AWEP にも相談日があり、最初来た人がその後も引き続き子供が大学卒業まで何年も来ており、外国人救援ネットは DV 問題など当面の問題で相談に来ているが、解決後のフォローができる余裕がない。AWEP もフォローの余裕がないためそのための団体として救援ネットの村西さん、AWEP の鹿島さんなどと立ち上げた。支援しているのはフィリピン人が主で、居場所を作りとして、日本語クラスやこどもの学習支援を行い、タガログ語での情報発信をしている。当初仕事作り、仕事探しをしたがマッチングが難しく挫折している。兵庫県の高齢者コミュニティビジネス離陸応援事業に応募して、パソコンを購入したりしてスタートした。

今コンビニで働く外国人が急増しているように、人手不足を補うため日本に住む外国人が増えてきます。身近なところで外国人が増えていくので寛容な気持ちで話しかけてください。

4．地域瓦版

県政 150 年記念講演会、初代兵庫県知事伊藤博文初代総理の最初の一歩、26 歳の伊藤が兵庫県を形成するに当たっての役割について講師は神戸学院大学の谷口義子先生、７月９日（月）14 時～ピフレ大ホールで開催されます。

放送音声は、FMYY の HP および「ゆうかりに乾杯」の HP で視聴いただけます。
http://tcc117.jp/fmyy/　　http:// yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/